

# Department of Painting, Japanese Painting Course 2026

TAMA ART UNIVERSITY





# はじめに

## Introduction

この豊かな風土と文化に培われ、独自の美意識を育んできた日本画。

日本画の大きな魅力は、自然の素材や技法を自在に使いこなすことによって生まれる表現の豊かさにあります。

同時に、伝統の継承にとどまらず、新たな表現の地平を切り拓く奥深さも備えています。

その意味で、日本画の世界は古くて新しい未知の可能性を秘めた領域です。

日本画専攻は、伝統的な素材の理解と基本的な技法の修得を基本に、

個性的で自由闊達な創造性を伸ばすことによって、日本の美術の土壌を豊かに広げる人材を育成します。

美術学部絵画学科日本画専攻

大学院美術研究科絵画専攻日本画領域

# 年間カリキュラム

## Curriculum

|     |                                                                                                                                |
|-----|--------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 4月  | <div>道具説明 [1年]</div> <div>春季コンクール [2、3、4年]</div> <div>佐藤美術館 日本画大学院2年生展 [大学院2年]</div> <div>課題実技/ゼミ</div>                        |
| 5月  | <div>表具実習 [2年]</div> <div>箔実習 [2年]</div> <div>課題実技/ゼミ</div>                                                                    |
| 6月  | <div>山中湖ゼミ [1年]</div> <div>課題実技/ゼミ</div>                                                                                       |
| 7月  | <div>油画、日本画合同技法講座 [1年]</div> <div>絵具実習、筆実習 [2年]</div> <div>オープンキャンパス</div> <div>課題実技作品展示 [1~4年]</div> <div>前期全体講評会 [大学院]</div> |
| 8月  | <div>夏季休暇</div>                                                                                                                |
| 9月  | <div>夏季コンクール [1~4年]</div> <div>卒業制作エスキース [4年]</div> <div>材料研修ゼミ [3年]</div> <div>篆刻実習 [大学院]</div>                               |
| 10月 | <div>模写実習 [2年]</div> <div>課題実技/ゼミ</div>                                                                                        |
| 11月 | <div>芸術祭</div> <div>箔実習 [1年]</div> <div>絹本実習 [1年]</div> <div>課題実技 ゼミ</div>                                                     |
| 12月 | <div>課題実技</div>                                                                                                                |
| 1月  | <div>冬季休暇</div> <div>冬季コンクール [1年]</div> <div>卒業制作 [4年]</div> <div>修了制作 [大学院]</div> <div>卒業制作展・修了制作展 [4年・大学院]</div>             |
| 2月  | <div>春季休暇</div> <div>入試期間</div> <div>東京五美術大学連合卒業・修了制作展<br/>(国立新美術館) [4年・大学院]</div>                                             |
| 3月  | <div>学位授与式 (卒業式)</div>                                                                                                         |

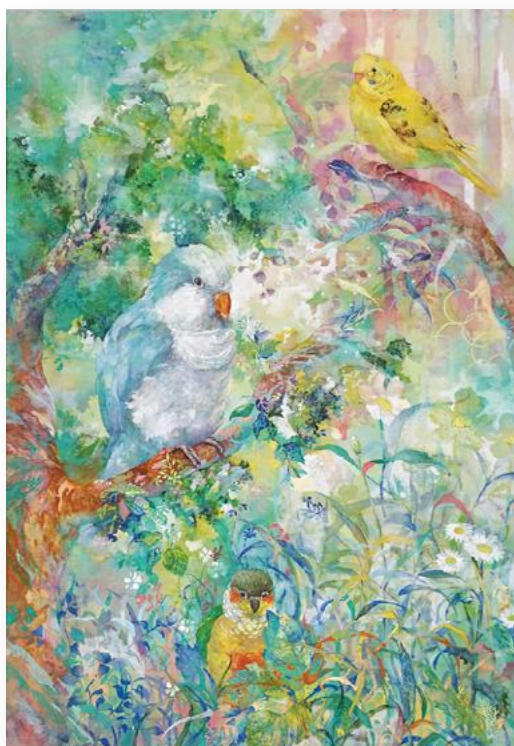
※年度によって時期が前後する場合がございます。

日本画の基礎を学び、画材に対する理解を深める。



1a

1b



- 1a 宮本 碧 「sleep」 72.7×91 (cm)
- 1b 江頭 桃花 「命の温もり」 91×65.2 (cm)
- 1c 荻原 慶士 「白波に漂う」 65.2×53 (cm)
- 1d 橋爪 琴音 「門前」 67.5×55 (cm)
- 1e 金子 真理亜 「sign」 100×80.3 (cm)

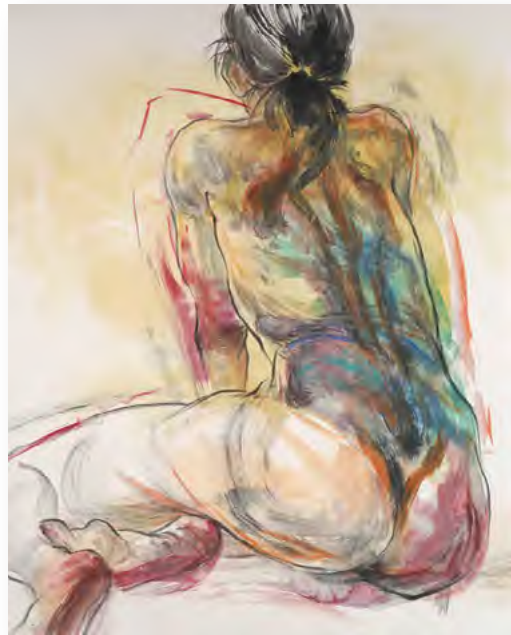
1c



1d



1e



定められた課題を通して、作品について考える力を養う。



2a



2b

- 2a 大木 桜子 「重なり」 95×140(cm)  
 2b 保田 姫佳 「まわる中庭」 80.3×116.7(cm)  
 2c 菊池 琢磨 「街へ」 116.7×91(cm)  
 2d 中村美月 「帰路につく」 91×60.6(cm)  
 2e HUNG Tzuching 「おやすみ」 130×162(cm)

|        |                                          |
|--------|------------------------------------------|
| 課題実技Ⅱ  | 花鳥画制作、風景制作、人物制作、動物制作                     |
| 日本画実技Ⅱ | 実技課題〔年2回(春季・夏季)コンクールとして日本画教員全員による講評会を実施〕 |
| 材料基礎学Ⅱ | 模写実習、表具実習、絵具実習、筆実習、箔実習                   |
| 特別演習   | 紙漉きの演習(選択自由科目)                           |



2c



2d



2e

1

2

3

4

M

自由課題を通して、自身の表現の幅を広げる。



3a



3b

- 3a 久保 愛実 「傘は休みの日」 130.3×162(cm)  
 3b 鷲見 朱音 「大地に坐す」 162×112(cm)  
 3c 益田 明 「一瞬だけ滅亡した」 116.7×91(cm)  
 3d 安齋 詩寧 「遊」 166.5×91.5(cm)  
 3e 木住野 瑞紀 「惑星」 116.7×236.4(cm)



3c



3d

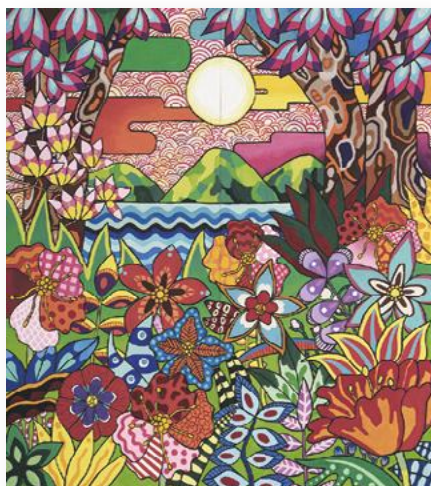


3e

これまでの学びを元に、自身の表現の更なる発展を目指す。



4a

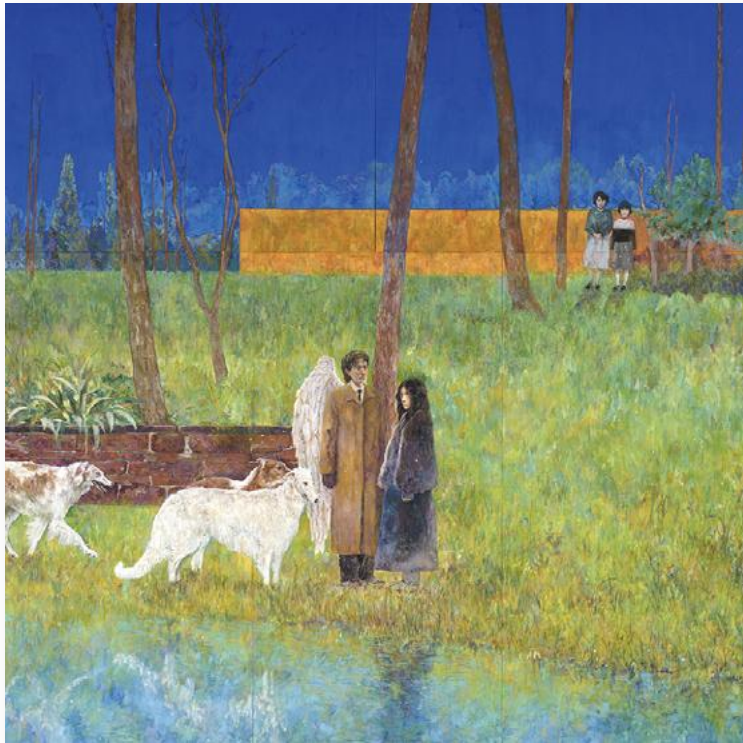


4b

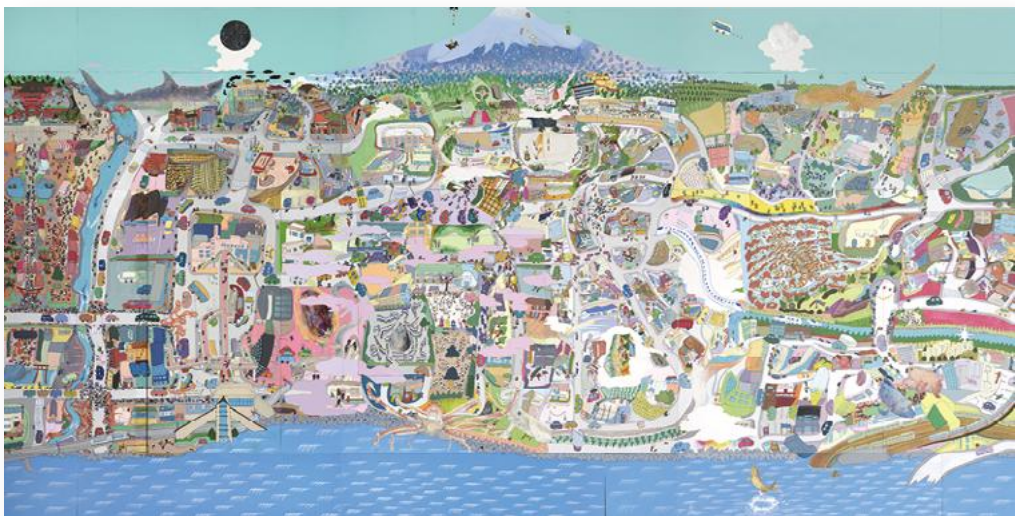


4c

- 4a Lo Tsai-wen 「次へ」 182×273(cm)  
 4b 北村 玲奈 「知の不自由」 180×160(cm)  
 4c 北村 玲奈 「無知の自由」 180×160(cm)  
 4d 井上 元嗣 「眠られぬ夜のために」 275×275(cm)  
 4e 太田 瑠菜 「日ひとひ、夜ひとよ」 402.3×700.2(cm)



4d



4e

1

2

3

4

M

作家への第一歩としてより深く自由な発想を追求し、  
自己の作品に沿った思考や技術の研究を行う。



Ma



Mb

- Ma LIANG Chuqing 「はじめ」 207.9×333.3(cm)  
 Mb LI Qiyu 「じっととした夜 ~Level0311」 182×291 (cm)  
 Mc WU Wenhao 「憂鬱な少年」 194×336 (cm)  
 Md 藤生百音 「ゆらゆらの池」 220×320(cm)

|         |                 |
|---------|-----------------|
| 絵画制作研究Ⅰ | 全体講評会（前期・後期）    |
| 絵画制作研究Ⅱ | 全体講評会 / 修了制作講評会 |
| 研究指導ⅠⅡ  | 論文指導を含む         |



Mc



Md

1

2

3

4

M

# 教員紹介

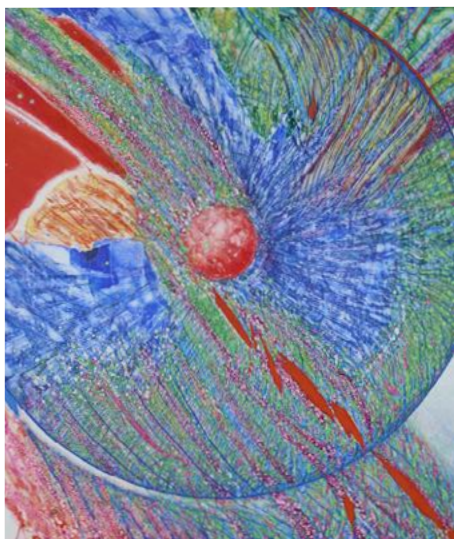
Introduction of Teachers



教授

武田 州左

Takeda Kunisa



「満地球-1048」(194×162cm) / 2023



教授

千々岩 修

Chijiwa Osamu



「贈られた世界」(120×120cm) / 2021



講師

陳 芃宇

Chen Pengyu



「停止の流れ」(91×72.7cm) / 2021



非常勤講師

楽 嘉怡

Yue Jiayi



「ご馳走様」(91×52cm) / 2026



講師

堀江 栞

Horie Shiori



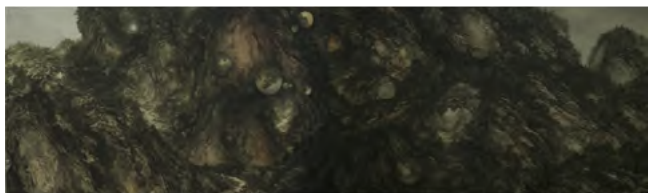
「輪郭 #17」(41×31.8cm) / 2020



教授

加藤 良造

Kato Ryoza



「三境図(部分)」(97×324cm) / 2023



客員教授

町田 久美

Machida Kumi



「苦水・bitter water-J」(91×72.7cm) / 2024



非常勤講師

山崎 雷蔵

Yamasaki Raizo



「宝島#12」(91×65.2cm) / 2025

# 特別講座講師

Special Lecture

美術評論家・美術史家

北澤 憲昭 特別講座講師

Kitazawa Noriaki

泉屋博物館 東京館長

野地 耕一郎 特別講座講師

Noji Koichiro

株式会社 小島美術 社長

小島 暁夫

Kojima Akio

絵本作家

はたこうしろう・おーなり由子

Hata Koshirou / Ohnari Yuko

専門家の指導のもと、

絵具、紙など日本画特有の素材を理論と実践の両面から体系的に学べます。

また、他学科も利用できる紙漉き工房を設置し、

絵を描くための紙を自らつくることもできます。

名誉教授

米谷 清和

Yonetani Kiyokazu



「はなの雨・そよ風」(220×110cm) / 2023

名誉教授

宮 いつき

Miya Itsuki



「双子座」(162×130.3cm) 文化庁所蔵 / 2000

## 卒業後の展望

Professional Carrier

多くの卒業生は、創作活動を続けています。そのなかには作家として活動している者、大学院などに進学する者、海外に留学する者、教員になる者などその形はさまざまです。絵本作家や装こう師として修復や表具に携わる者もいるなかで、一般企業に就職する者もあり、出版、ゲーム、アニメーションなど、日本画で培った感性を生かして活躍する者もいます。

## 進路先

Carrier

〈日本画学科〉

代々木アニメーション学院／有限会社カイカイキキ／有限会社芸術による教育の会  
株式会社日本テレビアート／株式会社東宝映像美術／株式会社手塚プロダクション  
株式会社ルクレ／株式会社ビューネット／株式会社ピコトン／株式会社ケイ・ウノ  
株式会社あとりすエニー／株式会社NEO／株式会社fun function／株式会社A3  
ハミルトン株式会社／株式会社コナミデジタルエンタテインメント／コナミグループ  
横浜市立上白根中学校／東京都立大学／作家／多摩美術大学大学院

〈大学院日本画〉

HNRXM株式会社／株式会社Prossimo 作家 多摩美術大学

— 楽先生にとって、多摩美日本画はどのような場所でしたか。

オープンキャンパスに参加したとき、私はまだ日本語をほとんど話せませんでしたが、先生方がとても親切に接してくださいました。その温かさに惹かれ、この学校を選びました。入学後は、一人ひとりの個性を尊重していただき、自由に成長できる場所であることを実感しました。先生方はいつも良いところを見つけて励ましてくださり、そのような環境に心から感謝しています。



《共生》2026/F100

— 制作を続ける上で大切にしていること、大切だと思うことは何でしょうか。

①私にとって、画業を続ける上で最も重要なのは、審美眼を磨き続けることです。審美眼が、作品の到達し得る深さを決めるのだと思います。そして、審美眼を磨くには、伝統ある作品を、数多く鑑賞することが重要だと思います。

②もう一つ、大切なことは、定期的に自分と対話することです。描きたい気持ちも必要ですが、自分の作品の中に宿る強さや脆さをよく見極め、長所



《百合制作》2016 F15

を育てながら、不足を静かに補っていきます。その往復の中で、自分なりの表現が、少しずつ輪郭を持ち始める気がします。

そして何より、物事への好奇心と謙虚さを持ちながら、少しずつ自分のペースで芸術の世界を探索していくことを大切にしています。

— 未来の後輩たちに一言、お願いします。

春夏秋冬の移ろいの中で、喜びも悲しみもたくさん経験しながら、自分らしく歩み、自分が本当にやりたいことを見つけてください。



《海眼》2019 F100



《春》2026/8.6×25(cm)



楽 嘉怡 Yue Jiayi

1991年 中国上海生まれ。2019年 多摩美術大学大学院日本画研究領域修士

2023年 東京藝術大学大学院保存修復日本画領域修士課程修了

2018年 池袋アートギャザリング公募展「IAG AWARDS 2018」オーディエンス賞

2022年 第9回 郷さくら美術館 桜花賞展 入選 / 2023年 第49回 春季創画展 春季展賞 入賞 / 2025年 日本の絵画2024 千住博賞 入賞

2026年 第52回 春季創画展 春季展賞 入賞 / 第11回 菅橋彦大賞展 入選 倉古博物館

多摩美術大学 美術学部 絵画学科 日本画専攻  
2026年度 パンフレット

#### 発行

多摩美術大学美術学部絵画学科日本画研究室  
〒192-0394 東京都八王子市鎌水 2-1723

TEL : 042-676-8611 ( 代表 ) / 042-679-5619 ( 研究室直通 )  
E-mail : nihonga@tamabi.ac.jp  
www.tamabi.ac.jp/nihonga

#### 表紙作品

太田 瑠菜 ('26 学部卒業)

#### デザイン

田村 正敏  
二十七 西瓜

#### 印刷・製本

渡辺印刷株式会社

2026年7月18日 発行

本書収録内容の無断転載、複写、引用を禁じます。

Department of Painting, Japanese Painting Course  
Pamphlet 2026

#### Publication

Department of Painting, Japanese Painting Course  
2-1723 Yarimizu, Hachioji, Tokyo, Japan 192-0394

TEL : 042-676-8611 / 042-679-5619 (Direct)  
E-mail : nihonga@tamabi.ac.jp  
www.tamabi.ac.jp/nihonga

#### Cover

Runa Ohta ('26 Graduated)

#### Design

Masatoshi Tamura  
Suika Nitonana

#### Print & Bookbinding

Watanabe Print Co., Ltd.

18 July, 2026 issue

Copyright (C) 2026 Tama Art University. All Right Reserved.





Department of Japanese Painting  
2-1723 Yurimizu, Hachioji, Tokyo, JAPAN 192-0394  
Tel 042-676-8611 / 042-679-8611 (Direct)